

第1号議案

NPO 法人ワンダーポケット2024年度事業報告

【特定非営利活動に係る事業】

1. 病気の子どもたちが良質な医療を受けるための環境整備に関する事業

(事業費 89,490 円)

●『クリスマスイベント』の開催

開催日時：2024年12月18日(水)、23日(月)、24日(火)

開催場所：東北大学病院、仙台市立病院、国立病院機構仙台医療センター及び
仙台赤十字病院

対象者：入院中の0歳～小学生の子どもたち

対象者数：東北大学病院 33名

(0歳児のみ)

仙台市立病院 26名

(0～2歳…7名、男の子…12名、女の子…7名)

仙台医療センター 30名

(0～2歳…7名、男の子…10名、女の子…13名)

仙台赤十字病院 37名

(0～2歳…30名、男の子…4名、女の子…3名)

合計 126名

概要：全病院において医師やスタッフが子どもたちにプレゼントを配布してくださることとなり、当法人(以下「ワンダーポケット」という。)ではプレゼントを作製・ラッピングし、イベント当日に病院スタッフへお届けするところまでを担当した。

配布したプレゼントは、キャンディ・レイ(中身はビーズのアクセサリやミニリース、折り紙製の独楽、クリスマスツリー型のマグネット、キャラクターのグッズ、風船 など)、毛糸とフェルトで作った指人形、厚紙とフェルト製の写真立て、遊びの冊子(折り紙や手遊びなどを紹介したもの)、クリスマスカードなどで、その多くは例年同様ボランティアやスタッフの手で作られたものである。これらに加え、株式会社ジーシー様よりご寄付いただいた歯ブラシや、折り紙・自由帳といった文房具類もあわせてラッピングし、子どもたちの年齢に応じたプレゼントを配布した。

今年度も、感染対策として作業日を数回に分け参加するボランティアを分散させるといった様々な配慮をし、病院や制作のボランティアと連絡を取りながら成功させることができた。

2. 病気の子どもたちとその家族を支援するための事業

(事業費 276,436 円)

●病児の兄弟姉妹の交流会「きょうだいの会」の開催

開催趣旨：重い病気を患うきょうだいをもつ子どもたちは、家族の温かなサポートにもかかわらず、ときに孤独感や不安を抱えてしまうことがある。このような境遇にある子どもたちが、大人のスタッフ・学生ボランティアと一緒に遊びや創作活動を楽しんだり、豊かな自然に触れたりすることでストレスを軽減し孤独感や不安感を癒すことが出来る心の居場所となるような場を提供する。

開催回数：3回

参加者数：延べ8人(3家族の子ども)

概 要：各開催概要は次のとおり

第1回きょうだいの会

開催日時：2024年9月28日（土）

開催場所：日立システムズホール仙台 3階クッキングルーム／2階アトリエ

参加者数：子ども2名 OG/OB2名

一般ボランティア3名 スタッフ4名

概 要：日立システムズホール仙台にて、午前中は料理企画、午後はワークショップの企画を開催した。

午前中は、料理担当ボランティアの指導のもと、クッキングルームにてハンバーグプレート作りに挑戦した。玉ねぎのみじん切りやハンバーグの形成など、子どもたちが初めて挑戦する工程も多かったが、ボランティア・スタッフに見守られながら、笑顔で挑戦することができた。料理の後半には、おやつ用のバナナチョコチップケーキ作りにも挑戦し、お昼ごはん・おやつ共に自分たちの作ったメニューを味わった。

午後はアトリエに移動し、ワークショップ『自分のお部屋に置きたいランプ作り』に挑戦した。透明の容器に色とりどりの和紙を張り付けていく作業では、「何色にしよう」「ここはどうしよう…」など、迷うことも楽しみながら作業していく姿が見られた。容器にぐるりと和紙を貼り付けていく根気の必要な作業だったが、集中して取り組むことができていた。完成後は発表シートに作品のタイトルやお気に入りのポイントなどを書き込み、作品への想いをみんなと共有し合った。最後に部屋を消灯しランプの点灯式も行った。暗い中で優しく灯るランプに参加者からは歓声があがっていた。

ワークショップの後は、近隣の台原森林公園に出かけたり、みんなでおしゃべりを楽しみながらおやつを食べたりと、のびのびと過ごした。初参加で緊張気味な子どもたちだったが、ボランティアらと仲良くなるにつれ笑顔が増え、帰り際には「またね!」と大きく手を振り合う姿が見られた。

第2回きょうだいの会

開催日時：2024年11月17日（日）

開催場所：八木山ベニーランド

参加者数：子ども2名 OG1名

学生ボランティア1名 一般ボランティア1名 スタッフ3名

概 要：地下鉄を利用して八木山ベニーランドへ出かけ、一日中園内で楽しむ企画を実施した。

朝に泉中央駅・仙台駅・八木山動物公園駅にて子どもたちとスタッフが合流し、八木山ベニーランドへ移動した。予約していた休憩所で開所式を行った後、子どもたちはさっそく園内へと飛び出していった。みんなで同じ乗り物を楽しむ場面もあったが、自分のお気に入りの乗り物に繰り返し乗るなど、子どもたちそれぞれのペースで満喫することもできている様子だった。今回は少人数での実施となったが、子どもたち・ボランティア共に前回からの継続参加で、朝から笑顔で触れ合う姿や、乗り物に乗る際に「〇〇ちゃんと乗りたい!」など子どもがボランティアを指名して一緒に楽しむ姿も見られた。お昼には近隣のファミリーレストランのお弁当をテイクアウトし、おやつは園内の売店でアイスを買って楽しんだ。休憩時間をはさんで、朝から閉園時間まで園内を走り回り、遊園地を満喫することができた。

第3回きょうだいの会

開催日時：2025年2月15日（土）

開催場所：日立システムズホール仙台 3階クッキングルーム／2階アトリエ

参加者数：子ども4名 OG／OB2名

学生ボランティア1名 一般ボランティア3名 スタッフ4名

概要：日立システムズホール仙台にて、午前中は料理企画、午後はワークショップの企画を開催した。

午前中の料理企画には、今回も一般ボランティアが料理の先生として参加してくれ、子どもたちと共に昼食のポットパイやサンドイッチ、おやつのイチゴババロア作りに取り組んだ。初参加の子どもは緊張した様子でなかなか輪に入れない姿も見られたが、OBが寄り添い対応することで少しずつ他児らとの距離も縮まり、料理に挑戦することができるようになっていた。パイシートを貼り付けるといった難しい作業も、ボランティアらが手本を見せながらレクチャーすることで上手にこなし、きれいにふくらんだポットパイを完成させることができていた。

午後はアトリエに移動し、ワークショップ『ひみつの庭を作ろう』に挑戦した。瓶の中に色とりどりの砂を重ね入れ、石・花・木・草などで飾り付けたところに、自分の分身となる人形を入れてそれぞれの庭を完成させていった。瓶から大きくはみ出すほど草花や人形を詰め込む子もいたが、「瓶の蓋は閉めたくない」というその子の今の気持ちを尊重し、自由に作品を完成してもらった。完成後は、発表シートを使って作品についての自分の想いをみんなに伝え、受け止め合った。声に出して発表することが難しい子もいたが、ボランティアがサポートに入りみんなに伝えることができていた。発表後は「森」に見立てた大きな箱庭にみんなの作品を配置して「ワンポケの森」を完成させた。「ワンポケの森」を置いた机の下は子どもたちの秘密基地のような空間となり、子どもたち全員が机の下に潜り込んでおしゃべりを楽しむ姿が見られた。

ワークショップの後は、お昼のパンの残りを持って台原森林公園に出かけ、魚にパンをあげたり、長縄で遊んだり、たくさん体を動かして過ごした。おやつ時間もみんなでおしゃべりを楽しみ、閉会式までの時間をにぎやかに過ごした。初参加の子が増え、子どもたちそれぞれのペースに寄り添いながらの活動が必要となったが、OG／OBやボランティアがそれぞれ丁寧に対応し、みんなが笑顔で過ごすことができてようになっていた。帰り際には離れるのが寂しいと涙ぐむ子の姿や、「次、いつ？」と何度も繰り返し尋ねる子の姿も見られていた。

●NPO 法人宮城こどもホスピスプロジェクトとの協働による「重度の慢性疾患児のきょうだい支援」（新規）

開催趣旨：病児の兄弟姉妹を対象に「きょうだいの会」を開催しているワンダーポケットと、病児本人やその家族のための遊び場「川平のおうち」を運営しているNPO法人宮城こどもホスピスプロジェクトが連携し、協働事業として様々な形で「重度の慢性疾患児のきょうだい支援」活動を実施していく。

概要：各開催概要は次のとおり

（1）顔合わせ会の開催

開催日時：2024年7月27日（土）

開催場所：SS30ビル2階 宮城大学サテライトキャンパス

参加者数：12名（各団体6名ずつ）

概要：具体的な事業内容や連携方法等を検討していくにあたり、それぞれの団体

の活動について理解を深めるべく、各団体の役員・スタッフ等が集まりそれぞれの活動内容について報告しあった。病児のきょうだい支援の在り方や、活動に携わるスタッフ・ボランティアの育成等、協働方法について具体的に検討し、8月11日に両団体のスタッフ・ボランティアを対象とした勉強会の開催が決定した。

(2) ボランティア勉強会の共催

開催日時：2024年8月11日（日）

開催場所：日立システムズホール仙台 研修室2

参加者数：両団体合わせて17名

概要： 例年「きょうだいの会」の開催に先立ち、学生ボランティア向けに勉強会を開催してきたが、今年度は新規事業の開始に合わせて両団体のスタッフ・ボランティアを対象とした勉強会を開催することとした。テーマは「LTC（生命を脅かす状態にある）の子どものきょうだい支援を考える」で、宮城学院女子大学名誉教授／ワンダーポケットの理事長である足立智昭先生と、宮城県立こども病院のチャイルド・ライフ・スペシャリストである大塚有希先生のお二人にご講義いただいた。病児の兄弟姉妹・家族のおかれている状況や心理状態等について深く学ぶと共に、病院での支援の実際やご家族の声なども知ることができた。講義終了後には会場内のカフェにて交流会を開催し、食事を楽しみながら情報交換し合うことができた。

(3) 「きょうだいの会」開催時の連携

「きょうだいの会」の案内冊子完成後、「川平のおうち」にも郵送し、対象となるご家庭にお声がけいただいている。

●ボランティア感謝会の開催

開催日時：2025年3月16日（日）

開催場所：TFU Cafeteria Olive（東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス内）

参加者数：18名

開催趣旨： ワンポケの役員やスタッフが、各活動に携わったボランティアや協力団体、病院関係者などを招待し感謝を伝えるとともに、活動報告や情報交換の場とする。

概要： 当法人の役員や運営委員が、この一年間にお世話になったボランティアや協力企業の方々、病院関係者の皆様などをお招きして食事をしながら交流し、日ごろの感謝を伝えた。各活動を紹介するスライドショー上映やじゃんけん大会も行い、和やかな雰囲気の中で、ワンポケの活動への思いを話し合った。

3. ボランティアを育成するための研修プログラムの提供事業 （事業費55,801円）

●ボランティア・スキルアップ講習会の開催

開催趣旨： 病院の小児病棟などで活動をしているボランティアの方々やこれから病院ボランティア活動を志す方々、保育士や学校教育に携わる方々など幅広く子どもに寄り添う人々を対象に、子どもを取り巻く社会環境の問題点を抽出し、共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケットの活動を一般の方たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の

情報交換の場とする。

講義内容：『アンガーマネジメント～シアワセを獲得するために～』

講師：文教大学教授 布柴 靖枝 先生

受講者数：約18名

概要：宮城県立こども病院の愛子ホールをお借りして、ボランティア・スキルアップ講習会を開催した。講師には、文教大学教授で公認心理師等の資格をお持ちの布柴靖枝先生をお招きし、「アンガーマネジメント」についての基礎知識や、怒りのメカニズム、自分自身の怒りにつながりやすい思考パターン、怒りの感情との向き合い方、などについてお話いただいた。受講者はボランティア経験者が多く、皆熱心に先生のお話に耳を傾けており、講義の最後には受講者からの質問も積極的に飛び出していた。受講後のアンケートには「アンガーマネジメントを勘違いしていた。我慢するやり方だと思っていた」「自分の中に『～であるべき』という思考が多くて怒りにつながっていることに気づいた」「仕事、介護、ボランティアで役立つ内容だった」「従業員の指導教育に、アンガーマネジメントやポジティブリフレーミングを取り入れて、良い関係を築いていきたい」「ぜひ布柴先生の話をもっと聞きたい」といった感想が寄せられ、多くの受講者にとって充実感のある講習会になった様子がうかがえた。

●ワンダーポケット「きょうだいの会」勉強会

開催趣旨：きょうだいの会に参加する学生ボランティアを対象に「きょうだい」を取り巻く家庭環境の問題点を抽出し共通理解を深める。ボランティアの質の向上、モチベーションの維持を目指し、活動意義や活動内容に伴う知識を習得する。また、ワンダーポケット及びきょうだいの会の活動を学生たちに理解していただく場所として企画・開催し、ワンダーポケットの活動のための組織強化を図ると共に、ボランティア同士の情報交換の場とする。

概要：宮城こどもホスピスプロジェクトとの協働新規事業を開始するにあたり、両団体のスタッフ・ボランティアを対象とした勉強会に置き換えての実施となった。（事業報告4ページ目を参照）

●ワンダーポケットの活動を通じたボランティアの育成・支援

活動事業：クリスマスイベント

従事者数：延約15名

概要：クリスマスプレゼントの制作においてボランティア活動の場を提供した。イベント後には成果や子どもたちの様子など病院からいただいた情報を共有する機会を持ち、活動への継続的な参加をお願いした。

4. この法人の活動に関する一般社会の理解をより深めるための広報、啓発事業

（事業費 14,652 円）

●ホームページ、ブログ「ラッコのしっぽ」の継続

ホームページやブログをイベント開催前や終了時を中心に更新するとともに、外部への情報公開や会員・支援団体への活動状況報告、ならびに各イベントやボランティア作業への参加呼びかけのツールとして活用している。

●ワンダーポケット通信の発行

発行回数：2回

発行部数：120部

概要： ワンダーポケットの活動状況を、会員やこれまで様々な形で活動を支援してくださっている方々に知らせていくため、ワンダーポケット通信 Vol. 44、45を発行した。23年度後半に実施したクリスマスイベントおよび24年度前半に実施した総会やきょうだいの会等の活動を報告する内容となっている。

- 『ボランティア・スキルアップ講習会』の会場において書籍の展示・販売を行う
病気の子どもに関する書籍の展示・販売は、2024年度は実施しなかった。

5. その目的を達成するために必要な事業 (事業費 0円)

●『ワンダーポケット』の組織強化活動

(1) 新規会員募集活動の実施

役員及び運営委員から周囲へ会員募集の声かけを行い、今年度の新規会員は1名だった。

(2) 現在の会員数の状況

2025年3月末時点の全会員数は58名で、その内訳は一般会員47名、賛助会員11名(うち団体3)となっている。また会費の未納者は7名(うち賛助会員1)で未納額は28,000円である。なお、2024年度は2名が退会した。

●会議の開催

(1) 理事会の開催

①開催日時：2024年5月20日(月)

開催場所：事務局

議題：総会に付議すべき事項について

②開催日時：2024年6月9日(日)

開催場所：みやぎNPOプラザ 第一会議室

議題：理事長及び副理事長の選定について

(2) 総会の開催

開催日時：2024年6月9日(日)

開催場所：みやぎNPOプラザ 第一会議室

議題：2023年度事業報告及び決算報告
2024年度事業計画案及び予算案
役員の選任について

●事務局の運営等

(1) 事務局員(2名)

(2) 運営委員会の開催 計4回(オンライン会議)

(3) 実行委員会の開催 計4回(オンライン会議)

【その他の事業】

その他の事業(物品の販売事業及びチャリティー事業)は実施しなかった。